

96**ktunes**
RACING

🇯🇵 M.NITTA 🇯🇵 Y.NAKAYAMA

Super GT 2018 Rd,6 SUGO GT Report 2018/9/16

Final Day Summary

スタートドライバーとなった中山選手が安定した走りで24番手からポイント圏内へ浮上させるが避けきれない接触でペナルティを取られ、14位でレースを終えた。

Final Day

年間8ラウンドのシリーズ戦となる2018 AUTOBACS SUPER GT。終盤戦が幕を開ける第6戦「SUGO GT 300km RACE」の決勝レースが9月16日（日）に実施された。

スポーツランド SUGO は K-tunes RC F GT3 の特性に合ったサーキットということで、15日（土）に行なわれた公式練習では3番手のタイムをマークして好調さを示した。しかし、ドライからウエット、またドライへ刻々と状況が変化するなかで、予選では路面コンディションに合わせ切れずに24位と苦戦を強いられることとなった。予選後にはタイヤメーカーのエンジニアを含めたチーム全体で公式練習と予選のデータを検証し、決勝レースへ挑むことになった。

16日は事前の天気予報だと雨の可能性もあったが、午前中から日差しが差し込み汗ばむほどの天候となった。スポーツランド SUGO には2万8500人の観衆が集まり、SUPER GTのプログラムは10時35分の選手紹介から始まった。11時5分から12時までのピットウォークも多くの来場者で人垣ができるほどの盛り上がりを見せる。決勝レース前の最終チェックとなるウォームアップ走行は、12時25分から12時45分に掛けて行なわれた。



Final Day

20分と短い時間のなかで中山雄一選手と新田守男選手の二人が K-tunes RC F GT3 のステアリングを握り、300km の決勝レースに向けてセットアップを確認するとともに余念のない調整を行った。

決勝レースは、予定通りの 14 時にパレードラップによって幕を切った。24 番手からスタートした中山選手は、1 周目に 3 台をパスして 21 番手でコントロールラインを通過。3 周目までに、さらに 3 台をパスしてジャンプアップを果たす。その後もトップ 10 を走るマシンと同等のタイムで周回を重ねて、10 周目には 17 番手、20 周目には 15 番手まで順位を上げる。22 周目を過ぎると徐々にルーティンのピット作業に入るチームが現われる。K-tunes Racing LM corsa は、中山選手のスティントをなるべく伸ばして、ピット作業時間を短縮させて上位を狙う戦略を採った。そのためにタイヤを労りながらラップタイムは落とさずに走るといった難しいタスクが中山選手には与えられた。30 周目には 9 番手となり、さらに上位陣がピットインしていった影響で 35 周目には 4 番手、40 周目には 2 番手まで浮上。42 周目にはついにトップに立つ、と 44 周目にピットレーンにマシンを進めた。しかし、このピット作業で想定外の出来事が起こる。中山選手は走行中にコースからラインを外して、クルマ半分がコース脇の芝生を走行したことがあった。その芝がジャッキアップしたマシンのブレーキに触れて、マシンから煙が上がってしまう。咄嗟の判断でメカニックが消火して事なきを得たが、大幅にタイムをロスしてしまう。

新田選手が乗り込んだ K-tunes RC F GT3 は 15 番手でコースに復帰するが、ちょうど GT300 クラスのポイント圏内を争う集団のなかに入ってしまう。タイヤのウォームアップが終わっていない状態での争いとなったため、ポジションを 3 つ下げて 47 周目には 18 番手となる。それでも 51 周目には自己ベストタイムとなる 1 分 21 秒 944 をマークして徐々に順位を挽回していく。55 周目には 15 番手、57 周目には 11 番手まで浮上しポイント圏内まであと一歩まで迫る。しかし、60 周目の SP コーナーで先行する 31 号車のプリウスと接触してしまう。K-tunes RC F GT3 にダメージはなかったが、31 号車はクラッシュしてしまい 64 周目にセーフティカーが導入される。70 周目にレースはリスタートし、K-tunes RC F GT3 は 9 番手を走行していたが、先ほどのピットストップ時の給油行為に対してドライビングスルーペナルティがくだされる。73 周目にこのペナルティを消化するためにピットレーンを通過したため 14 番手まで順位を落として、75 周目に 14 位でフィニッシュした。ゴール後に 31 号車との接触に対しても競技結果に 37 秒加算ペナルティが与えられた。チームは、先ほどのピット作業違反の内容確認を求めると、レギュレーションに抵触していない事が判明し、ピット作業違反のペナルティは覆ったものの、ドライビングスルーペナルティが接触に対するものにすり替えられた。

中山選手と新田選手ともに安定したラップタイムで走行し 24 番手スタートからポイント圏内のフィニッシュが見えていただけに、釈然としない判断によりポイントを失うこととなった。

Team Comment



Director : 影山 正彦

前半のスティントを担当した中山選手は、安定して早いラップタイムで走行して24番手スタートから大幅に順位を上げてくれました。ピット作業では、フロントバンパーに付いていた芝がブレーキに触れて煙が出てしまい、消火作業などで時間が掛かったことが悔やまれます。新田選手が担当した後半もペース良く走っていましたが、ピット作業違反でゴール寸前にドライブスルーペナルティを取られました。結果としてピット作業違反は取り消されたのですが、今度は新田選手のドライブ中に接触したことがこのドライブスルーペナルティに振り替えられました。やや不可解な判定だったのですが受け止めるしかありません。ドライブスルーペナルティがなければポイント圏内でのフィニッシュだったはずなので、残念なレースとなりました。



Driver : 新田 守男

後半のスティントを担当したのですがピット作業が遅れたことで、GT300の混戦の中に入ってしまった。マシンのバランスやタイヤのパフォーマンスも良かっただけに、もう少し前に出られていれば違った展開になったはず。SPコーナーでの31号車との接触は避けきれないところもあったので、ペナルティが取られたことは残念です。予選は24位と不本意な結果となりましたが、決勝レースは両スティントともにペースが安定していて、ライバル勢よりも速かったので結果につなげたかったです。



Driver : 中山 雄一

決勝レースはクルマの状況もタイヤもコースコンディションと合っていたため、24番手から追い上げることができました。30周を過ぎるとグリップ感が薄れてペースが落ちてきたので、本来ならばピットインした45周よりも引っ張りたかったのですが、安全を期して入りました。レース中に最終コーナーで半車身コースをはみ出たときがあって、そこで芝を拾ってしまいました。想像よりも多くの芝が付着していて、それがピットストップ時にブレーキに触れて煙が出ました。このアクシデントがなければ、もっと上位を走っていたはずですし接触も避けられたはず。決勝レースはペースが良かったので、展開に恵まれずに残念でした。

2018年スーパーGT レーススケジュール

- ▶ 10.13-14 Round.7 AUTOPOLIS
- 11.10-11 Round.8 MOTEGI